

令和 5 年度

伊万里・有田圏域二級水系流域治水協議会

伊万里・有田地域の県管理河川大規模氾濫に関する減災対策協議会

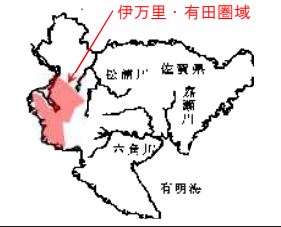
5 流域治水プロジェクトについて

伊万里・有田圏域 二級水系流域治水プロジェクト【位置図】 (案)

～伊万里湾にそそぐ多様な特徴を有する河川の流域における流域治水対策の推進～

○平成18年出水、令和元年佐賀豪雨をはじめとした近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、河道掘削、雨水ポンプ等の整備に加えて、当該地域特性に応じた、ため池の事前放流等による雨水貯留機能の向上、防災行政無線等の防災情報伝達手段の強化による早期避難体制構築など、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進する。

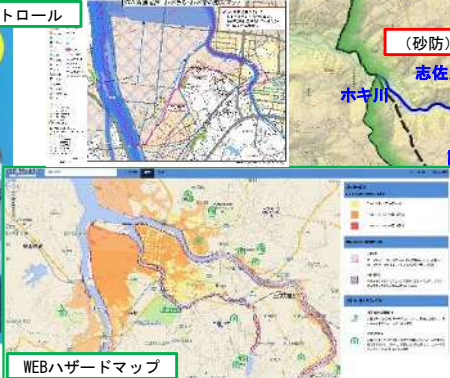
位置図



伊万里市

- 農業水利施設の整備及び有効活用 (出水期のため池の低水管理及び事前排水)
- 排水強化(楠久津地区)
- 排水強化(浦分地区)
- 防災行政無線での放送等
- 防災講習会や避難訓練等による防災意識向上
- 立地適正化計画の策定

消防団等の関係機関合同河川パトロール

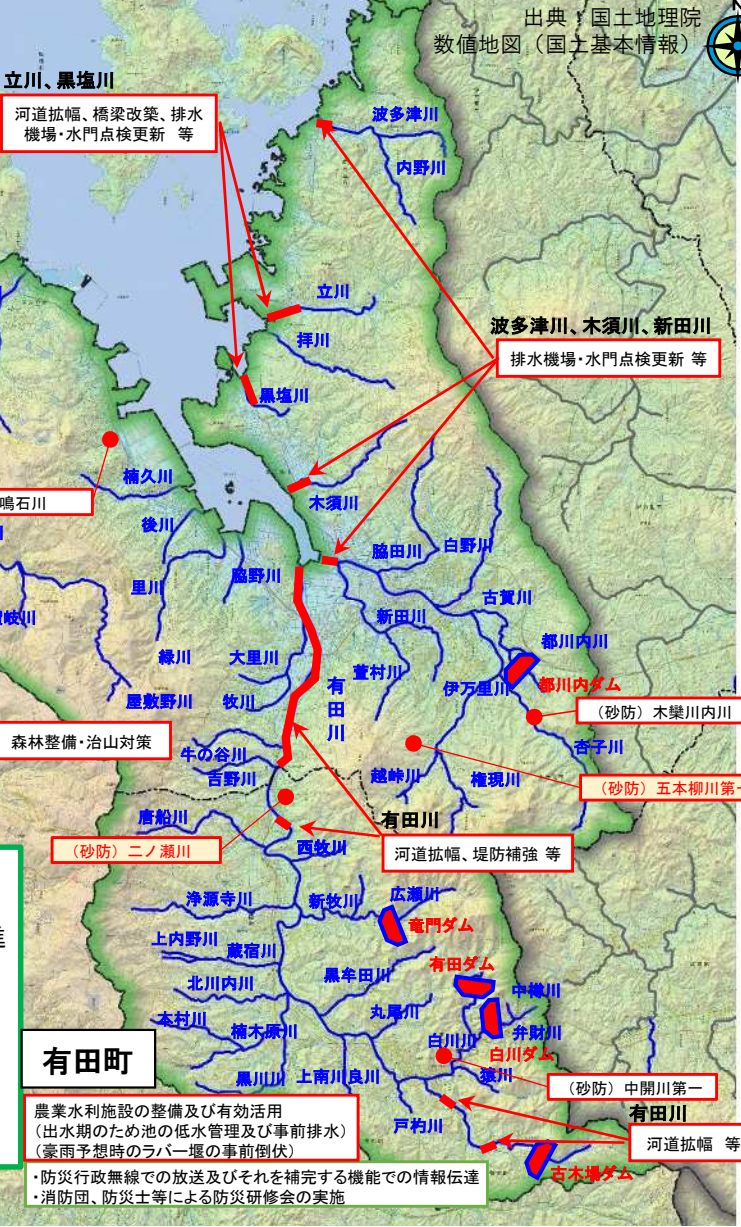


被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 早期避難の推進と防災情報伝達手段の強化
- 防災意識の向上に向けた、関係機関と連携した防災教育の推進
- 防災ハザードマップ・ため池ハザードマップの作成・周知
- 簡易水位計、監視カメラの拡充
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と訓練の実効性確保
- 報道機関と連携した情報発信の強化
- 水害リスク情報の拡充 等

※今後、関係機関と連携し対策検討

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。



有田町

- 農業水利施設の整備及び有効活用 (出水期のため池の低水管理及び事前排水) (豪雨予想時のラバー堰の事前倒伏)
- 防災行政無線での放送及びそれを補完する機能での情報伝達
- 消防団、防災士等による防災研修会の実施

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 河道拡幅、堤防整備、河道掘削、護岸整備、橋梁改築、排水機場・水門点検更新 等
- ため池の補強・有効活用
- 農業水利施設の整備及び有効活用
- 水田の貯留機能向上(田んぼダムの普及・啓発)
- 利水ダム等5ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
- 森林の整備・保全
- 土砂や流木の流出抑制対策(砂防、治山) 等
- 排水ポンプ車の運用
- 河川管理施設等の機能向上(遠隔操作化、耐水化等)
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

削除

(河道掘削等)

立川、梓川、伊万里川、古賀川、有田川、丸尾川、唐船川、浄源寺川、蔵宿川、黒川川、楠木原川、戸杓川、猿川 等

(雨水排水施設等の整備)

松島雨水ポンプ場



水源林の整備



貯留施設



■被害対象を減少させるための対策

- 一定規模以上の開発行為には貯留等を義務付け
- 不動産取引時の水害リスク情報提供 等

伊万里・有田圏域 二級水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～伊万里湾にそそぐ多様な特徴を有する河川の流域における流域治水対策の推進～

伊万里・有田圏域では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町等が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】浸水被害軽減のため、河道掘削や、雨水ポンプ等の整備を実施する。また、水害リスク空白地帯の解消を図り、避難体制を強化する。

【中期】内水被害軽減のため、排水機場の整備・耐水化を実施する。また、河川監視カメラ等を拡充し、避難体制を強化する。

【中長期】河川等の流下能力不足解消のため、河川改修を実施し、また、土砂・流木の流出抑制対策を実施する。

併せて、ため池等の農業水利施設の有効活用や森林整備等の「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」、一定規模以上の開発行為に対する貯留施設設置等の義務付け等の「被害対象を減少させるための対策」、避難訓練や、ハザードマップの作成等の「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」を実施する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道拡幅、堤防整備、河道掘削、護岸整備、橋梁改築、排水機場・水門点検更新 等	伊万里市、有田町、佐賀県	河道掘削 等	・河川等改修、維持管理	
	ため池の補強・有効活用	伊万里市、有田町、佐賀県			
	農業水利施設の整備及び有効活用	伊万里市、有田町、佐賀県			
	水田の貯水機能向上(田んぼダムの普及・啓発)	佐賀県	削除		
	利水ダム等5ダムにおける事前放流等の実施、体制構築	伊万里市、有田町、土地改良区、佐賀県			
	森林の整備・保全	伊万里市、有田町、伊万里西松浦森林組合、佐賀森林管理署、佐賀県、森林整備センター佐賀水源林整備事務所		・森林整備事業の実施・水源林造成事業の実施・間伐等	
	土砂や流木の流出抑制対策(砂防、治山)	佐賀県、佐賀森林管理署		砂防施設整備 治山事業の実施	
	雨水幹線の整備等	伊万里市		(雨水ポンプ場)松島	
	排水ポンプ車の運用	佐賀県			
	河川管理施設等の機能向上(遠隔操作化、耐水化等)	佐賀県		新田川排水機場 等	
被害対象を減少させるための対策	不動産取引時の水害リスク情報提供	伊万里市、有田町			
	一定規模以上の開発行為には貯留等を義務付け	佐賀県		10,000m ² 以上の開発行為には貯留等を義務付け	
	立地適正化計画の策定	伊万里市、(佐賀県)			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	伊万里市、有田町、佐賀地方气象台、佐賀県	・水害リスク低減の空白地帯の解消 ・早期避難の推進と防災情報伝達手段の強化 ・防災意識の向上に向けた、関係機関と連携した防災教育の推進 ・ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進 ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性の確保 ・報道機関と連携した情報発信の強化・水害リスク情報の拡充 等 ・簡易水位計、監視カメラの拡充		
	氾濫水を早く排除する	伊万里市	・防災/パトロール ・出前講座の実施 ・避難所の感染症対策 ・防災行政無での放送及びそれを補完する機能での情報伝達 ・マイ防災マップづくりと拡充 ・消防団、防災士等による防災研修会の実施 等		※スケジュールは今後の事業進捗によって、変更となる場合があります。

伊万里・有田圏域における対策内容

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

伊万里・有田圏域 二級水系流域プロジェクト【佐賀県の取組】

～伊万里湾にそそぐ多様な特徴を有する河川の流域における流域治水対策の推進～

- 河道掘削、堤防整備、河道拡幅、護岸整備、橋梁・堰改築、樋管改築、排水機場・水門点検更新 等
- 【佐賀県の事例】

【佐賀県】

○立川 の改修を継続実施



区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ対策	河道掘削、堤防整備、河道拡幅、護岸整備、橋梁・堰改築、樋管改築、排水機場・水門点検更新 等	佐賀県	▶		

伊万里・有田圏域 二級水系流域プロジェクト【佐賀県の取組】

～伊万里湾にそそぐ多様な特徴を有する河川の流域における流域治水対策の推進～

- 河道掘削、堤防整備、河道拡幅、護岸整備、橋梁・堰改築、樋管改築、排水機場・水門点検更新 等
- 【佐賀県の事例】

【佐賀県】

○伊万里川、有田川など河川に堆積した流れを阻害する土砂の撤去を実施



丸尾川（河道掘削状況）

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ対策	河道掘削、堤防整備、河道拡幅、護岸整備、橋梁・堰改築、樋管改築、排水機場・水門点検更新 等	佐賀県	▶		

■土砂や流木の流出抑制対策（砂防、治山）

【佐賀県の事例】

【佐賀県】

砂防施設等の整備を継続実施



鳴石川砂防（整備状況）

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ対策	土砂や流木の流出抑制対策（砂防、治山）	佐賀県、森林管理署	▶		

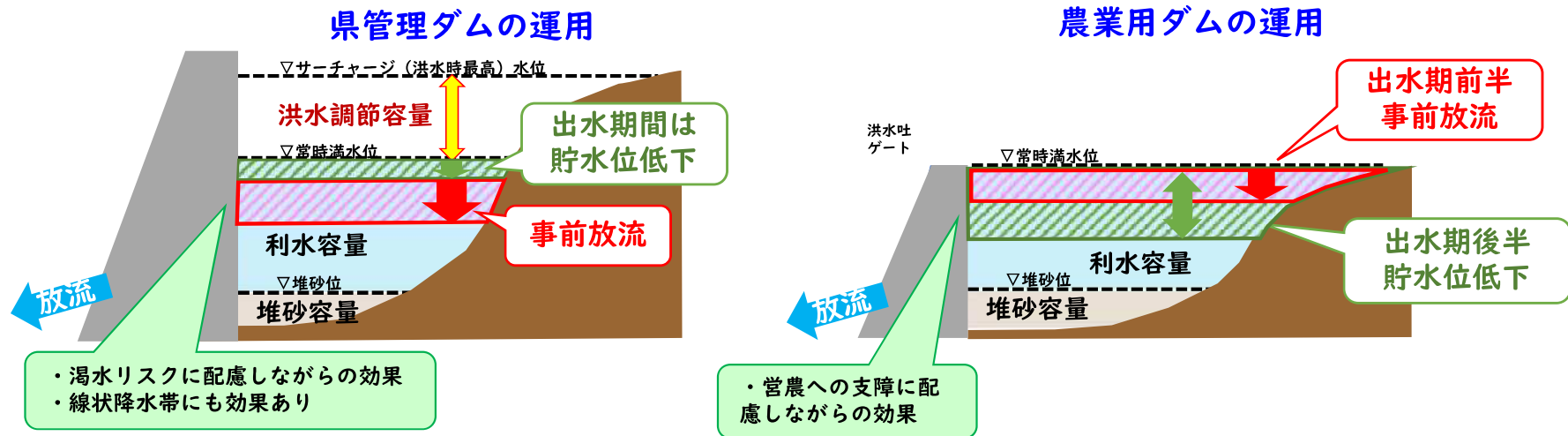
既存ダムの事前放流等により浸水被害軽減に取り組みます！

■既存ダムの事前放流等で洪水調節機能の強化

ダムの利水容量（上水道、工業用水、かんがい用水など）の一部を事前に放流することで、洪水調節容量を確保。

■2段構えの運用

- ① 予め通常より水位を低下させておく『貯水位低下運用』を実施
- ② 大規模な洪水をもたらすような大雨が予想される場合に、早ければ3日前から『事前放流』を実施



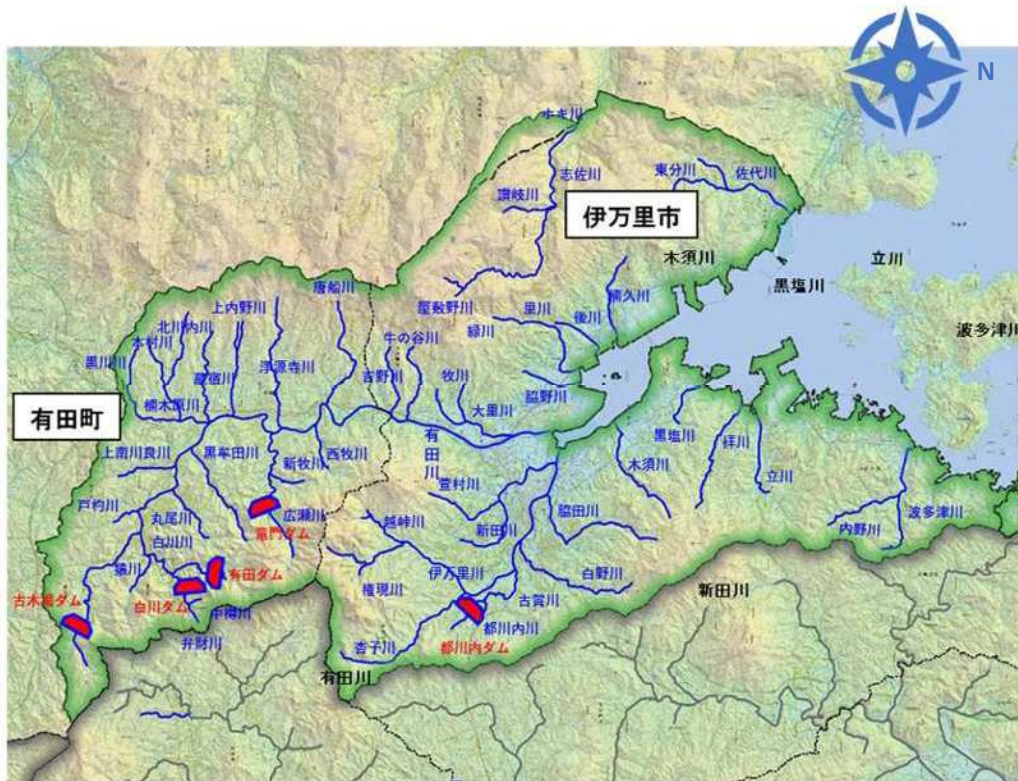
県土整備部 河川砂防課 城原川ダム等対策室、農林水産部 農地整備課

伊万里・有田圏域 二級水系流域プロジェクト【森林関係の取組】

～伊万里湾にそそぐ多様な特徴を有する河川の流域における流域治水対策の推進～

■森林整備、治山対策（氾濫河川上流域における森林整備、治山対策の実施）

森林は水源涵養機能や山地災害防止機能等の公益的機能を有しており、この機能の適切な発揮に向け、森林整備、治山対策を推進。間伐等の森林整備の実施により雨水を地中に素早く浸透させ、ゆっくり流出させるという森林の洪水緩和機能を保全するとともに、治山事業の実施により流木・土砂の流出抑制効果を発揮させ、流域上流における防災・減災対策を図る。



森林整備による浸透能の向上効果



治山事業の実施による流木・土砂の流出抑制効果



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能の拡大及び土砂等の流出抑制	森林整備・治山対策 ・治山事業の実施 ・森林整備事業の実施 ・水源林造成事業の実施	伊万里市、有田町、伊万里西松浦森林組合、佐賀森林管理署、佐賀県、森林整備センター佐賀水源林整備事務所			

伊万里・有田圏域における対策内容

被害対象を減少させるための対策

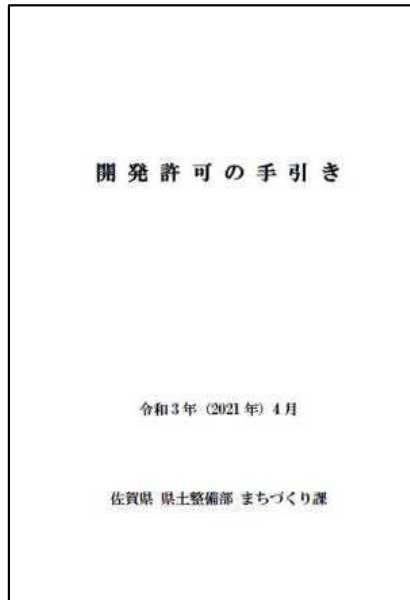
■一定規模以上の開発行為への貯留義務付け【佐賀県の事例】

【佐賀県】

○平成13年5月から、都市計画法改正により、都市計画区域以外の一定の開発行為（面積1ha以上）についても開発許可が必要。

○開発面積が1ha以上の開発行為については、原則として一時、雨水を貯留する調整池を設置することを義務づけ。

○「開発許可の手引き」を策定し、開発行為者に指導。



貯留施設設置状況



調整池

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	一定規模以上の開発行為には貯留等を義務付け	佐賀県	▶		

伊万里・有田圏域における対策内容

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

■伊万里市防災パトロール【伊万里市】 継続

- 地元から提出された災害危険箇所の調査を行い、雨季前に危険箇所の状況や今後の対応などについて地元と共有を図った。
- 市、伊万里有田消防本部、伊万里警察署、伊万里農林事務所、伊万里土木事務所、地元区長などで災害危険箇所の現状把握を行う伊万里市防災パトロールを行った。



黒川町立川（水門）で説明を受ける様子



黒川町立川（水門施設内）で説明を受ける様子

■伊万里市防災パトロールによる効果

- ① 雨期前に市、行政区双方で災害危険箇所を把握することで、災害被害の軽減が期待できる。
- ② 災害対応における防災関係機関相互の協力体制の確認を行うことができた。

■今後の取り組み

- ① 継続実施する。

■市ホームページ、広報紙等を活用した防災に関する啓発活動 【伊万里市】 継続

【出前講座】

- 各種団体等からの申込みにより出前講座を実施。
- 令和5年度は8団体195名に対して市の防災体制や平時、災害時の市民の対応等について説明した。
- 山代町の区長会で「マイ・タイムライン研修」を行い、避難の際にスムーズに行動できるよう説明した。

【市ホームページ】

- 自然災害全般に関することや、河川・土砂災害のハザードマップなどを掲載している。

【広報紙等】

- 6月号の「広報いまり」に防災特集を掲載し、災害時や緊急時の情報伝達手段など市民に周知した。



市民が避難所の資機材を設営している様子（出前講座）

【避難行動計画】 わが家のマイ・タイムライン作成シート

台風や大雨などは、事前に進路や規模が予測できるため、接近時の計画を立てておくことで適切な避難行動に繋げることができます!!
台風や大雨時における一人ひとりの避難行動計画を立てましょう。

自分「作成する前に」	防災マップでチェック	家族の状況のチェック	避難行動の検討
あなたの住んでいる地域は？ <input type="checkbox"/> 浸水想定区域 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒区域	住んでいる場所の浸水深は？ (想定最大規模) 例：伊万里川3～5m [川, m]	避難に支援を必要とする人 (高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦など) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	警戒浸水区域 いいえ → 屋内避難 はい、建物が高さ2階建て以上の建物 → 垂直避難(避難階段の上) → 水平避難(避難所等)
		ハザードマップの最大浸水深等を考慮すると、垂直避難で安全が確保できる。 いいえ	いいえ → 屋内避難 はい → 垂直避難(避難階段の上) → 水平避難(避難所等)

【マイ・タイムライン】

警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3 高齢者等は避難	レベル4 全員避難
行政からの情報 等		●自主避難など注意の呼びかけ	●高齢者等避難	●避難指示
警戒レベル相当情報 等	●大雨になりそう	●大雨注意報、洪水注意報 等	●氾濫警戒情報、大雨警戒・洪水情報 等	●氾濫危険情報、土砂災害警戒情報 等

■ 出前講座、市ホームページを活用した防災に関する啓発活動による効果

- ① 市民の防災意識や知識の向上に寄与した。
- ② 地域防災力の向上に寄与した。

■ 今後の取り組み

- ① 継続実施する。

■避難所運営対策 【伊万里市】 継続

- 雨季前に、指定避難所で避難者の受け入れなど対応を行う市職員に対し、災害配備体制の説明や連絡体制の確認を行うとともに、パーティションや簡易ベッドなどを設置し、災害時の市民の受け入れに備えた。
- 福祉避難所の設営訓練を実施し、連絡体制、避難所開設までの流れを確認した。
- 出前講座において指定避難所で使用する簡易テント、簡易ベッド等の設置方法を説明し、避難所で使用する資機材の設置方法を市民が体験した。



災害配備体制の説明会の様子



福祉避難所避難訓練の様子

■ 避難所運営対策による効果

- ① 職員の災害対応に対する心構えや避難所運営のための対応力向上を図り、円滑な避難所運営に寄与した。
- ② 市民の防災意識や知識の向上に寄与した。

■ 今後の取り組み

- ① 継続実施する。

水害リスク情報を共有できるハザードマップへの改良と周知及び活用の推進【有田町】

防災意識向上と迅速な避難に役立つマイ防災マップづくりと拡充【有田町】

- 平成30年度に町内の土砂災害警戒区域等の指定及び有田川の浸水想定区域の公表が完了し、令和元年度に有田町防災マップを作成のうえ全戸配布し、ホームページでも公開している。
- 町指定の緊急避難場所や自治公民館、消防格納庫、町内の小中高等学校の区域をカバーするA1サイズのハザードマップを配布・掲示して地域のリスク情報を周知している。
- Web版ハザードマップにより自宅や勤務先等必要に応じた縮尺でマイ防災マップが作成可能となった。
- 令和3年度の改訂で、避難情報の更新（避難指示・高齢者等避難…）、ダム（竜門ダム・有田ダム）の越水ハザードマップの追加を行った。



↑ハザードマップ（令和4年2月改訂版）



↑ダムの越水ハザードマップのページ



↑公共施設や自治公民館配布用マップ

成果

- 縮尺が大きくなり、地域の細部まで確認できるようになった。
- 地域防災の中核である消防団格納庫にて地域のリスク情報を把握できるようになった。

課題・今後の予定

- 町民の防災意識を高めるため、今後も住民説明会や防災訓練等の機会を活用し、ハザードマップを利用して、啓蒙活動を行いたい。

水防災教育、出前講座等を活用した講習会の実施【有田町】 関係機関が連携した水防訓練、連絡体制、情報共有の強化【有田町】 自主防災組織、水防団、防災リーダーの育成強化【有田町】

- 地区で開催される会議等において、防災研修を実施した。
- 自主防災組織連絡協議会を結成し、組織間の情報共有体制の整備を図ることにより、町の防災体制の充実強化に努めた。また、消防団や防災士にも呼び掛け、佐賀県（危機管理防災課）と（一財）消防防災科学センターと合同で防災研修会（佐賀県防災啓発研修）を実施した。

成果

- 平常時から「災害時に活動できる自主防災組織づくり」「自主防災組織間の連携」に取り組み、地域住民による避難の呼び掛け（助け合い）に繋げる重要性を学んだ。

課題

- ハード整備により、大規模災害を経験した住民が少なくなってきたおり、逃げ遅れを防ぐためにも防災教育は繰り返し行い、防災意識の啓発が重要である。
- 出前講座等を実施できる職員を養成する必要がある。

今後の予定

- 自主防災組織や消防団、関係機関と連携して、避難訓練や地区防災会議等必要や要請に応じて、出向いて防災教育を実施していく。
- 児童等に対する防災教育も関係機関と連携をとって実施していく。
- 今後も自主防災組織連絡協議会を中心に、避難所運営などの研修を行い、組織間の連携体制及び協力体制の充実強化を図る。



自主防災組織連絡協議会（R5.11.5実施）



佐賀県防災啓発研修（R5.11.5実施）

水害リスクが高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施【有田町】 重要水防箇所共同点検【有田町】

○区長へ地域の危険箇所について、情報提供してもらい関係機関（平成30年度より伊万里土木事務所からも参加）と合同で、住民立会のもと5月24日（水）に防災パトロールを実施した。
地域から要望があった5箇所の確認を実施した。



防災パトロール（5/24（水））の様子

成果

□ 雨期前に町と関係機関や地域住民で危険箇所を把握することで危機管理意識を共有できた。

課題

□ 民地の管理不足による危険箇所が多く、行政として即座に対応できる箇所は少ない。

□ 区長からの情報提供が減っている。

今後の予定

□ 今後も情報提供を依頼し、継続して実施する。

地域住民・市民団体・関係機関の連携・協働による地域の将来
を担う人材の教育・発掘に向けた取組

【長期浸水リスクの周知】

【伊万里土木事務所】

二級河川立川について各防災関係機関へ水防災教育として講習会を実施



■ 成果

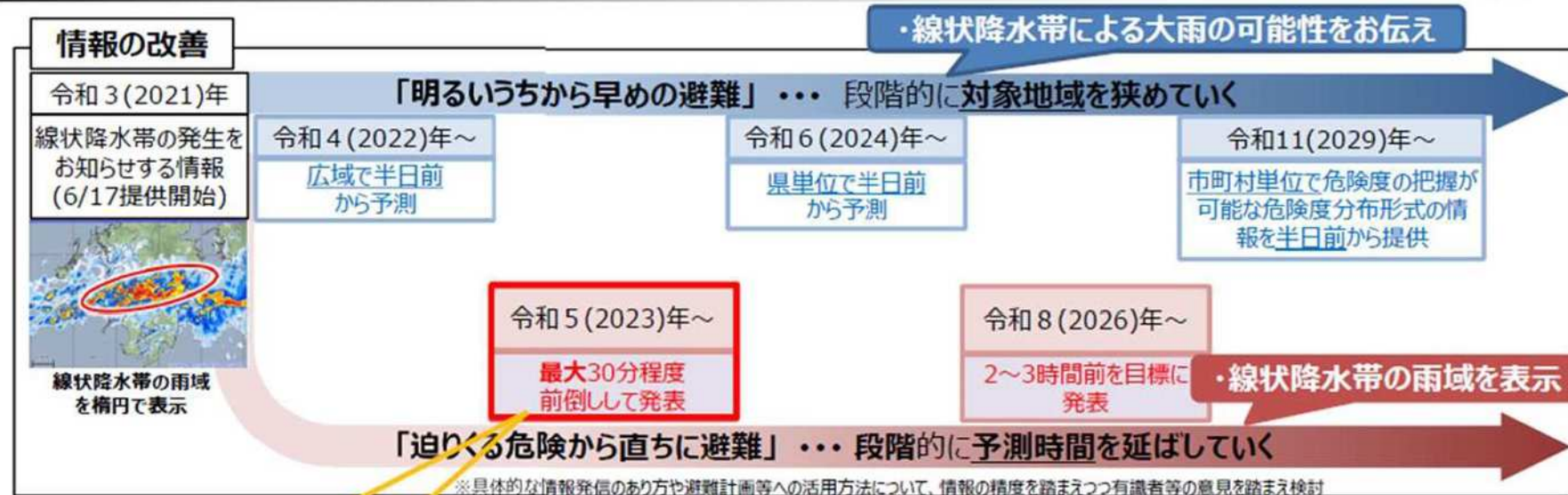
令和5年4月から新規に運用を開始した立川水門を紹介するとともに、過去の水害状況や河川改修における水門が果たす機能などについて講習会を行った。

この講習会の実施により、立川沿川での浸水リスクの周知を図り、また各防災関係機関に水門の運用方法を確認していただくことにより、水防活動における協力体制の充実強化を図ることができた。

「顕著な大雨に関する気象情報」を、より早く、提供します



佐賀地方気象台
Saga Meteorological Office
Japan Meteorological Agency



「顕著な大雨に関する気象情報」について、現在は発表基準を実況で満たしたときに発表しているところ、予測技術を活用し、線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えることを目指す。

加えて、以下のデータも提供

○楕円データ（線状降水帯の雨域）

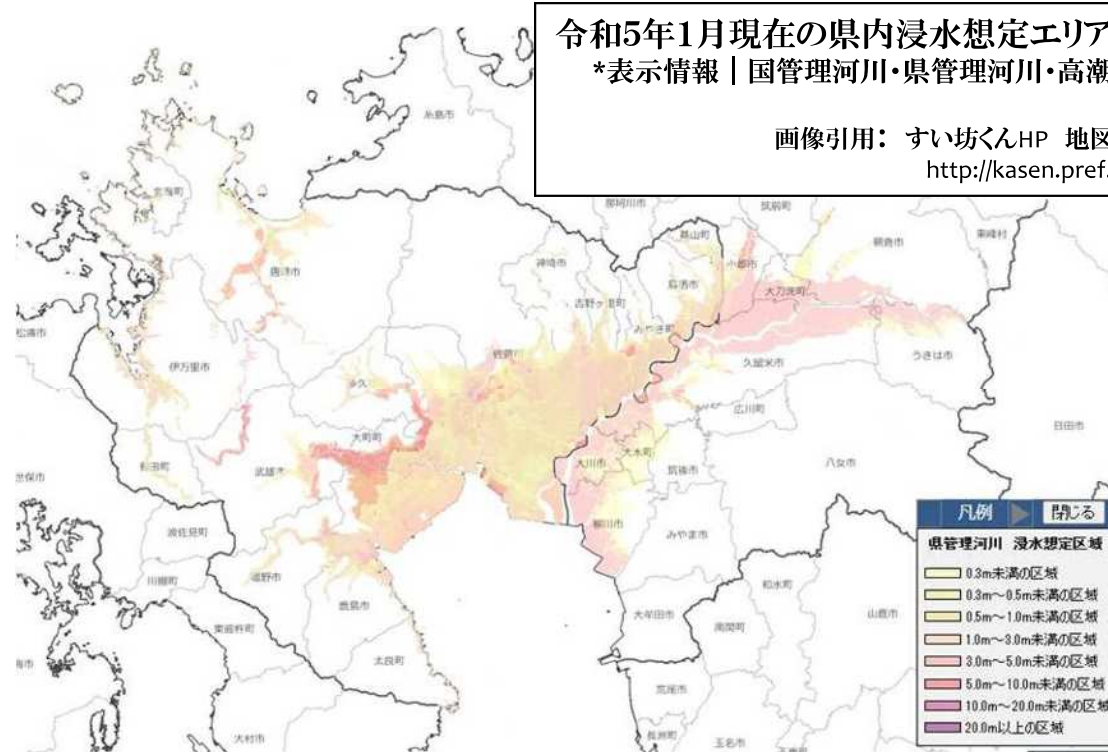
⇒データ配信（事業者等向け）

○「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たした事例（線状降水帯の事例）

⇒気象庁HPの解説ページに自動掲載

①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組 【住民等への防災情報の周知】

■水害リスク情報空白域の解消に向けた中小河川洪水浸水想定区域図の作成【佐賀県】



令和3年7月の水防法改正

住家等の防護対象がある(山付き護岸でない等)県内ほぼすべての河川

→ **浸水想定区域図** 及び **ハザードマップ**の作成 が必要

(作成の目途 : 浸水想定区域図... 令和7年度まで ハザードマップ... 令和8年度まで)

■今後の対応

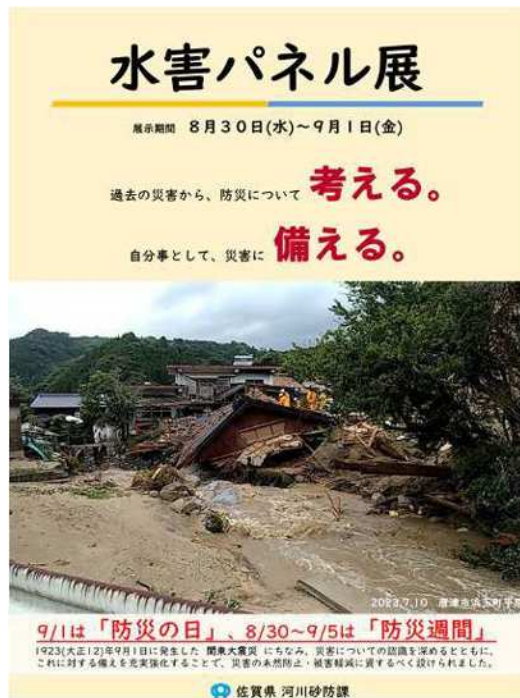
国のフォローアップ調査に応じて、作成する市町との情報共有を図る

①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組

【防災意識の啓発】

■あらゆる媒体を活用した地域住民の水防災意識啓発のための広報の充実【佐賀県】

○ 8月30日～9月1日の間、防災週間にあわせて佐賀県で発生した著名な洪水のパネル展示を実施。



■成果

○ 防災週間で令和3年8月豪雨による被災状況なども含めたパネル展を実施したことで、広く県民に防災意識の啓発が図られた。

■今後の予定

- 継続実施。
- 防災週間以外では、各種団体が開催する防災展などへパネルを貸し出し、防災に関する啓発に寄与していきたい。

■水害の記憶の伝承【佐賀県危機管理防災課】

◆『伝えよう 佐賀の災害歴史遺産』

- 県内には、過去の災害対策等を現代に伝える「災害歴史遺産」が建造物や石碑、行事等様々な形で残っているが、その存在が知れ渡っているとは言えない状況にある。
- 県では、災害歴史遺産の由来等を紐解き、そこから得られた教訓を伝えていくことにより、地域の防災力向上に資するとともに、今後も災害歴史遺産を守っていくという意識の高揚を図るため、『伝えよう佐賀の災害歴史遺産』を作成し、県内の小学5年生を対象に、小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校へ配布を行っている。
- 今年度（令和5年度）も同様に、約 9,000部を出水期前までに配布済

